

平成21年8月29日(土)午後2時、金沢市文化ホールにおいて「第18回松原記念講演会」が開催され、大ホールの会場に約350人の参加者がありました。

今回は北陸の精神医学の最先端を担ってこられた金沢大学大学院 脳情報病態学(神経精神医学)三邊義雄教授を講師に招き、「21世紀の精神医学」特に子どものこころに注目して」と題して講演いただきました。

講師は、精神医療をテーマにした映画を紹介した後、精神科領域における機能的脳外科療法の起源、治療薬の発見と臨床導入、電気けいれん療法・心理療法の再評価、機能的脳外科療法の新たな展開等に触れ、近代精神医学の歴史について説明されました。

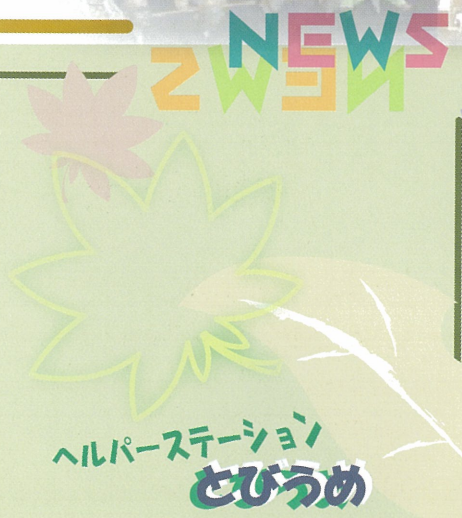
その後、金沢大学附属病院精神科における統計データを紹介し、総合病院精神科での休息入院の薦めについて説明されました。近年、自宅療養が療養となりえない例、親しい人にはかえって気をつかってしまつて休息できないといった例などが多く、気軽に入院して早めに治療することが大事であると述べられました。

また、子どものこころの成長に関する調査・研究を行なつていく「ハンビプラン」と、危機にさらされている子どもに対して新たなアプローチを創出し、社会の要求に応える指導者層や次世代の高度専門家の育成を目的としている「連合小児発達研究科」を紹介し、講師が現在取り組んでおられる活動について説明されました。



「成長が遅いと感じる子や、周囲とのコミュニケーションがうまくとれないといった子の中には、脳神経の先天的な特性が原因で一般的な育て方が向かないケースがあるという事が分かってきた。そして、昔と違って近年は、精神疾患や子どもの心の問題について人々の注目や理解が広まり、世の中が寛容になったと言え、今後よりオープンに地域に溶け込んでいく医療が大切である。」と語りました。

松原記念講演会は精神保健や社会福祉に関するテーマを選び、一般の方にも分かりやすい内容で平成3年より毎年開かれていきます。平成22年は8月28日にやはり金沢市文化ホールにて行われます。入場は無料ですのでお気軽においでください。



### ヘルパーステーションとびうめ

「ヘルパーステーションとびうめ」が10月1日より開設されました。「ヘルパーステーションとびうめ」は介護保険法の訪問介護・予防訪問介護事業所で、ケアマネジャーと連携を取りながら、ご高齢の方の在宅での身体的な介護や生活のお手伝いを行います。

## こころの処方箋

### アスペルガー症候群：F845(ICD-10)について

松原病院副院長 桃井文夫



アスペルガー症候群は広汎性発達障害(相互的な社会関係とコミュニケーションのパターンにおける質的障害、および限局した常同的反復的な関心と活動の幅によって特徴づけられる一群)の一つで、疾病分類学上の妥当性がまだ不明な障害です。1944年、Aspergerが自閉的精神病質と名付けた症例を報告しました。その臨床像を5項目に分けて示します。

①眼差しが物や人に向かわず、注意の喚起と生き生きとした接触を示すことがない。

②不自然な調子で、滑稽で嘲笑を誘うような言葉がある。

③独特の思考と体験様式があり、おこなから学ぶことができず、自己流で、関心は狭い視野または小さな断片に限られている。

④非常に不器用で、日常生活の基本的習慣が覚えられず、硬く滑らかなでない運動で、身体図式をもち合わせていないように見え、自分勝手な行動のために集団適応が困難となる。

⑤欲動と感情の起伏に異常な推移があり、人格に調和的に織り込まれておらず、過敏と鈍感が表裏になつていく。

Aspergerはこれらの諸特徴が2歳頃から出現し、一生を通して認められ、知的・性格的性能は発展し、発育の途上で個々の特色が出没し、問題は姿を変えながら本質的なものは不変であり、統合失調症でみられる活発な内的異常体験と進行性の人格解体のないことを強調しました。

Aspergerが報告した自閉的精神病質については、一時期ほとんど注目されなくなつていきましたが、1981年にWingがAspergerの自閉的精神病質を、改めてアスペルガー症候群として取り上げて以来、アスペルガー症候群と自閉症の高機能群との関連やさまざまな症候群(学習障害、発達性言語障害、注意欠陥多動障害等)との関連について注目されています。また、Schizoid personality, Schizotypal personality disorderおよび成人の統合失調症との関連性についても検討されています。

### 自立就労支援センター いしびき

平成21年1月石引郵便局の隣に「自立就労支援センターいしびき」が開所しました。「自立就労支援センターいしびき」は多機能型サービス事業所(就労継続支援事業B型・就労移行支援事業・自立訓練)と共同生活援助(グループホーム)の事業を行っています。一般就労を希望する方や生活スキルの向上が必要な方に対して、個別に担当相談員がつくことで個々の利用者様に対応した支援を提供しています。「地域活動支援センターピアサポートいしびき」は現住所の事業所のままで、生活や就労などに関する相談・情報提供の他、交流の場としてのスペースの提供、利用者様の自主的な活動のサポート、関係機関との連携・調整など総合的な支援を行っています。

### 訪問看護ステーション いしびき

平成21年1月1日より、「訪問看護ステーションいしびき」が開設されました。訪問看護ステーションになったことで、24時間の相談連絡体制となりました。当ステーションでは、看護師がかりつけ医師の指示に基づき、患者さまの相談内容に応じた看護サービスをご自宅へ直接お伺いして提供いたします。専門的な知識・技術を持った看護師が患者さまの心と身体両面のケア、ならびにご家族への支援を行なっています。訪問看護の利用についてはお気軽にご相談下さい。

